

崎田恭平日南市長に対する問責決議

本市発注の工事入札をめぐり、本年1月19日に、当時の本市副市長であった田中利郎氏が官製談合防止法違反及び公契約関係競売入札妨害の疑いで逮捕されて以降、これまでに3回の逮捕、そのうち2件について起訴されたことは、市民を大きく失望させるとともに、市政に対する信頼を著しく失墜させた。

崎田市長は、副市長の任命権者として、本来であれば副市長の逮捕後、速やかに副市長に進退の意向を確認し、本市行政への信頼回復と行政運営に支障を与えない措置を講じる責任を有していたにも関わらず、本年3月4日の3回目の逮捕を受けて翌5日に開かれた全員協議会においても「接見禁止のため本人の意思確認ができていない」と答弁するなど、副市長の逮捕という前代未聞の事態であるにも関わらず、その処遇について速やかに対応しない姿勢からは、積極的に市民の信頼回復や行政運営の立て直しを果たそうとする気概を感じることはできず、崎田市長の対応に市民からも批判の声が上がっている。

また、崎田市長は、事件の全容が明らかになっていないことを理由に、自身の任命責任を判断できないとしているが、そもそも、副市長の職責にあるものが、罪を疑われるに足る行動をしたことそのものが、もはや副市長の資質に欠けていると言わざるを得ないのであって、副市長が逮捕されたという事実のみをもってしても、任命権者である市長にその責任が及ぶことは当然のことであり、田中前副市長の退職を承認することをもって、その責任を果たしているとは到底言い難い。

崎田市長は昨年10月に、本年4月25日の任期満了をもって市長職を退く意向を示していることから、今回の事件や副市長の任命に関し、その責任を果たすものであれば、本日をもって閉会する本定例会において、市長給与の減額等、自らの処分が示されるべきところであるが、本日までにその意思を示されることはなく、また、田中前副市長の判決確定は市長の任期満了後であることが明らかであるにも関わらず、自らの責任は当該判決の確定後に示そうとする姿勢は、市長の責任を放棄したと断じざるを得ない。

よって日南市議会は、崎田恭平市長に、田中利郎前副市長の任命権者として、また、今回の事件発生における市政の責任者としての責任を問うものである。

以上、決議する。

令和3年3月18日

日 南 市 議 会